

『Boys, be ambitious !』 ～ クラークの弟子の大島家とのつながり ～

筆者は、日本癌学会の名誉会員として、2025 年 9 月 25 日 ～ 27 日 石川県立音楽堂 他（石川県金沢市）での第 84 回日本癌学会学術総会に出席する。今回の日本癌学会学術総会会長は、大島正伸先生（金沢大学教授）である。

【第 84 回学術総会は、約半世紀ぶりの石川県金沢市での開催であり、金沢から最先端のがん研究の成果を発信し、地域の活性化を通して少しでも能登半島の復興につながる学術総会にしたいと考えています。そこで、学術総会のキャッチフレーズを『つながるがん研究』と掲げ、人と人のつながり、研究者、医師、患者、そして企業研究者とのつながり、地域間の実現できるプログラムを企画し、多くの参加者が全国から集い、また海外からも参加して議論する場を提供します。さて、先生には平素より貴重なご助言、ご指導を賜りまして まことにありがとうございます。】との心温まるメールを大島正伸先生から頂いた。

今回、2003 年 お茶の水の東京ガーデンパレスで、筆者の順天堂大学教授就任を兼ねての【『われ 21 世紀の新渡戸とならん』（イーグレープ）出版記念シンポジウム】に、大島正伸先生の今は亡きお父様（大島智夫先生）が出席されたことが鮮明に蘇ってきた。神奈川県海老名市の大島智夫先生のご自宅での会食に wife と招待されたことが、忘れ得ぬ思い出である。海老名総合病院での【がん哲学外来開設記念講演 ～ 第 1 回大島正健記念 がん哲学外来シンポジウム～】（2015 年）に、大島正健（札幌農学校 1 期生）のお孫さんの大島智夫先生も出席され、ご挨拶もして頂き、会場は、大いに盛り上がった。『クラーク先生とその弟子たち』（大島正健著、大島正満、大島智夫 補訂；教文館 1993 年）を拝読し、教育者としてのウィリアム・クラーク（1826-1886）（画像）の【『Be gentleman』 & 『Boys, be ambitious !』】の由来を学んだ。

札幌農学校を率いたウィリアム・クラークが、『その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだ言葉』と、大島智夫先生から伺ったものである。クラークの名言『ボーイズ・ビー・アンビシャス(boys be ambitious)』を『少年よ大志を抱け』と訳したのが教育者・大島正健である。

